

花王 プレシジョン・モニタリングを実用化 皮脂RNAモニタリングを活用した 肌解析サービスを導入

花王は、健康課題に対し、その原因を正確に特定(プレシジョン・モニタリング)し、さまざまな角度からの確かなソリューション提案を行う「プレシジョン・ライフケア」構想を進めている。

化粧品分野において、肌に関する情報は簡単に入手できるようになった。モニタリングを具現化した第1弾として、核となる皮脂RNAモニタリング、多くの選択肢の中で、自分の状態が今どうである脂質RNAモニタリング、目指す姿にとって何が最も必要なのかを見極める状態を精緻に把握するサービス「Skin Potential Analysis」(スキンポテンシャルアナリシス)を提供する。2022年11月よりスタートする。これにより、個人が今の自分の状態を知り、必要なケアを的確に見つけることができる提案を指す。

人生100年時代と言われる中、病気にならないだけでなく、より健康的に、より快適に人生を過ごすことが重視されている。そのため健康やシジョン・モニタリング

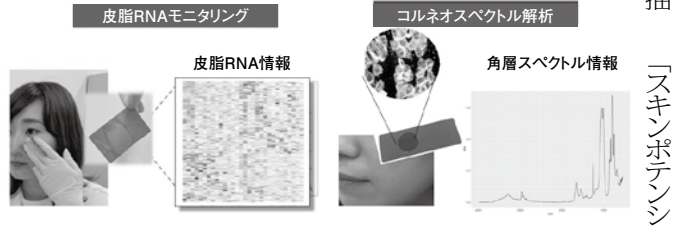
化して新ジャンルのパーソナルを価格訴求型のトップバリュベストプライスでラインアップしている。因みにトップバリュのプレミアム

記者の窓

イオンの吉田昭夫社長は決算発表の席上で、低価格政策と同時に、付加価値消費への対応が課題になると語った。PBの見直しを進めている。NBメーカーが10月から値上げしたビールを例にとり、素材と製法にこだわったプレミアムビールを通常のトップバリュの約2倍となっている。コンビニ業界はコロナ禍で客数が減少し、客単価の上昇が続いている。主力のファストフードで付加価値商品

付加価値化が進展

以降、全国の名産品を売り込んでいる。直近でも、有名店の監修を受けた高価格帯の弁当を含め、あらゆる分野で付加価値化が迫られている。(F)



●プレシジョン・モニタリング「スキンポテンシャルアナリシス」を叶える技術

ことも報告している。さらに、肌の最外層にあり、肌の美しさを担う角層機能を高精度に解析する研究を進めている。角層を構成する全ての物質を分子レベルで取得し、そのデータを多量に解析することで、角層本来の機能を予測する技術(「コルネオスペクトル解析」)を確立した。

また、このサービスに測し、その人に最適なスナックやアプローチを導き出すことができるようになる。角層を採取すれば、近隣の店舗やアドバイザーが

山中伸弥氏と「若返り研究」を推進 米グラッドストーン研究所へ 研究員1名を派遣

コセーは、世界トップレベルの医学研究で知られるグラッドストーン研究所(米国カリフォルニア州サンフランシスコ)の上席研究員・山中伸弥博士が主宰する山中研究室へ研究員1名を派遣し、「若返り研究」をともに推進していくことで合意した。山中博士は、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)名誉所長兼教授も務めている。

最大の特徴は、見た目の山中上席研究員率い部の情報を豊富に含む生体試料を利用することであり、たとえば今現在「肌乾燥している」という現象は同じである。生体試料をもとに個々の肌の乾燥原因を推

花王は、化粧品事業において、カウセリングブランドの最大資産である美容部員の役割を最適化することに伴い、2023年1月より、総称を「ブランドエバンジェリスト(ブランドの伝道師)」に変更する。これにより、顧客とブランドの絆をさらに深め、「強いブランドづくり」を加速させていく。

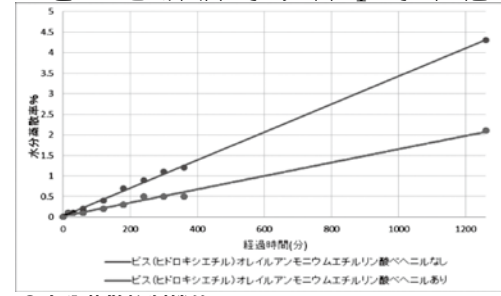
花王は、化粧品原料として世界初となる界面活性剤「ビス(ヒドロキシエチル)オレイルアンモニウムエチルリン酸ベヘニル」を日油、奈良女子大学と共同開発した。研究成果は、国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)ロンドン大会で発表している。今後は、同原料・研究内容を応用し、メークアップ製品やスキンケア製品へ積極的に配合していく。

世界初の界面活性剤の 共同開発に成功

アルピオン

アルピオンは、化粧品原料として世界初となる界面活性剤「ビス(ヒドロキシエチル)オレイルアンモニウムエチルリン酸ベヘニル」を日油、奈良女子大学と共同開発した。研究成果は、国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)ロンドン大会で発表している。今後は、同原料・研究内容を応用し、メークアップ製品やスキンケア製品へ積極的に配合していく。

同社は高級化粧品メーカーとして真に価値のある商品を提供するため、植多岐にわたる研究に取り組んでいる。



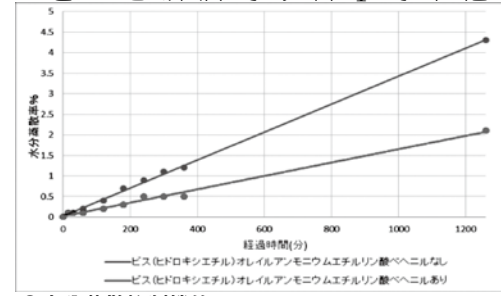
●水分蒸散抑制機能
ビス(ヒドロキシエチル)オレイルアンモニウムエチルリン酸ベヘニル(赤色)では、なし(水色)と比べて水分蒸散が抑えられている



は、2007年からグラッドストーン研究所で上席研究員として研究室を主宰している。今後は、グラッドストーン研究所の山中研究室と、分化した細胞から未分化のiPS細胞に初期の加齢モデル細胞などを用いた研究を推進することにより、これまで解明されていなかった加齢変化の仕組みを解明できることが期待される。加齢の新たなメカニズムを解き明かすことで、老化に関する知見を蓄積し、より顧客ニーズに応える化粧品やサービスの開発に応用していく。

これまでコセーは、「若返り研究」の一環として、同一人物から36歳の細胞に比べてミトコンドリアの質が回復することを報告している。

「ビス(ヒドロキシエチル)オレイルアンモニウムエチルリン酸ベヘニル」が水と油を乳化する機能に加え、微細な小胞を形成する機能、粉体を分散する機能、水分蒸散を防ぐ機能を併せ持つ界面活性剤であることを見出した。



●水分蒸散抑制機能
ビス(ヒドロキシエチル)オレイルアンモニウムエチルリン酸ベヘニル(赤色)では、なし(水色)と比べて水分蒸散が抑えられている

美容部員の総称をブランドエバンジェリストに変更

花王は、化粧品事業において、カウセリングブランドの最大資産である美容部員の役割を最適化することに伴い、2023年1月より、総称を「ブランドエバンジェリスト(ブランドの伝道師)」に変更する。これにより、顧客とブランドの絆をさらに深め、「強いブランドづくり」を加速させていく。

花王は、化粧品原料として世界初となる界面活性剤「ビス(ヒドロキシエチル)オレイルアンモニウムエチルリン酸ベヘニル」を日油、奈良女子大学と共同開発した。研究成果は、国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)ロンドン大会で発表している。今後は、同原料・研究内容を応用し、メークアップ製品やスキンケア製品へ積極的に配合していく。

同社は高級化粧品メーカーとして真に価値のある商品を提供するため、植多岐にわたる研究に取り組んでいる。

同社は高級化粧品メーカーとして真に価値のある商品を提供するため、植多岐にわたる研究に取り組んでいる。